

タブレットPC等の特性を生かした効果的な利用法に関する研究（2年次）

～ICT機器の活用と運用管理～

福島県教育センター 情報教育チーム 指導主事 加藤 真理

1 研究の趣旨

現在の高度情報通信社会の発展に対応するため、学校現場でもICTの活用が進められている。その目的の一つは「子どもたちによる活用」である。今後、あらゆる職業が情報技術に関係すると言われる時代に生きる子どもたちにとって必要な「情報活用能力」の育成が求められているためである。もう一つは「教科指導への活用」である。授業にICTを上手に取り入れることにより、分かりやすく授業を行うことが可能となり、新しい学びに対応した学習につなげていくことが期待されている。このような背景により、タブレットPCを中心としたICT機器の効果的な利用法と検証が、現在求められている課題と考え、研究のテーマとした。

2 研究の概要

(1) 研究構想

主に教育センター内で行った1年次の基礎研究を踏まえ、2年次の研究構想を以下のように掲げて、小学校1校、高等学校1校に研究協力を依頼し実践を行った。

学校の機器環境や教育目標に即した、タブレットPCの効果的な利用、環境整備を含めた運用管理の在り方について、実践的に明らかにする。

(2) 研究の視点

① 環境整備と運用管理の工夫

文部科学省よりICT活用に関するさまざまな実践事例が報告されているが、実際には各自治体や学校ごとに機器の環境や目指す教育目標に違いがあり、必ずしも参考にならないケースがある。予算も限られていることが多く、現在のICT環境で教育効果を高めるための、環境整備や運用管理の在り方について研究を行った。

② 実践Ⅰ「教師による教科指導での活用」

教師が教科指導でタブレットPCを利用し、基本的な機能を利用しながら、その特性を生かした活用実践を行った。

③ 実践Ⅱ「児童生徒による授業での活用」

グループ1台または1人1台の環境において、ICT機器の特性を生かした利用を行い、児童生徒の情報活用能力を育成するとともに、効果的な活用について実践的に検証した。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

① 現在のICT環境で、効果的に活用するための運用管理の在り方について提案し、実践へとつなげることができた。

② ICTの活用により、以下のような効果が検証できた。

○ ICT機器の活用により、時間を短縮することで児童生徒の学習を支援する時間等が確保された。

○ タブレットPCの活用により、コミュニケーション活動において、積極性を引き出すことができた。また、児童生徒の思考を可視化したり、共有したりすることで表現力を高めることができた。

③ 研究を進める中で、学校全体でICTを活用した授業づくりの機運の高まりが見られた。

(2) 今後の課題

① 授業におけるICTの活用を広めていくためには、活用スキルの向上が必須であり、そのために校内研修等を継続的に実施し、組織として取り組んでいく必要がある。

② ICTを活用する授業において、教師自らの授業力を向上させるとともに、単にICTを使うのではなく、どのような目的でどのような効果を期待するのか、活用場面を認知することが必要である。